

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール 4	佐藤 若菜			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

中国地域研究／日中関係／台湾・香港／民族衣装・衣服・物質文化／親子・家族・社会関係／結婚
内容

本ゼミでは、自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することを目指す。まず、レポートや論文の書き方を指導する。論文の閲覧と要約を通して、論文とは何かについて理解することを促す。加えて、卒業論文の要となる資料収集についても指導を行う。特に、日本語だけでなく、英語ないし中国語の書籍・論文を読むことを必須とする。各自が設定したテーマに関して、日本とそれ以外の国における研究分析の違いについて考察する力を身につけることを目標とする。

3年次後期からは、自身の卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関連した文献を読む。4年ゼミでは卒業論文の進捗状況を報告し、執筆した草稿を定期的に提出する。

<これまで指導した卒業論文のテーマ>

○中国・台湾・香港に関するテーマ

- ・現代中国における若者の化粧行動：「90 後」世代に着目して
- ・社会的迷惑行為の日中比較：中国における迷惑行為基準への視角から
- ・日中国際児の言語選択：母親による言語教育に着目して
- ・日本と中国のテレビ・コマーシャルがうつしだす文化的差異：視聴者との共在状況に着目して
- ・台湾映画のなかの日本：本省人監督が描く日本統治時代

○母娘関係、家族、結婚に関するテーマ

- ・現代日本における友人化した母娘関係：未婚期から既婚期への変化に着目して
- ・日本における児童ソーシャルワーカーの役割と位置づけ：イギリスとの比較から
- ・日本における人とペットの関係性：イヌに着目して
- ・子どもの学力と貧困：秋田県と新潟県に着目して
- ・日本における現代女性の結婚観：晩婚化とその対策

○その他：民族衣装、人類学理論、民族誌、文化など

- ・日本のフォークロア・ファッションにおける循環性
- ・レヴィーストロースの構造主義：神話研究に着目して
- ・暴走族に付与されたストーリー：漫画・新聞・民族誌に着目して
- ・被災地における音楽空間の創出：「癒し」の視点から
- ・日本における映画離れの現状と解決策
- ・アメリカにおける肥満問題と対策：日本との比較から
- ・地産地消と食育：新潟県に着目して

毎回の予習・復習として、計 4 時間相当の課題を出す。ゼミでは、各学生がその成果を発表し、皆で議論する。

使用予定テキスト

戸田山和久、2012、『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK 出版社。

その他、各学生の関心に沿って、適宜指示する。

ゼミの進め方

各学生がテキスト・論文・書籍を読んで作成したレジュメをもとに議論を行う。

成績評価基準

レポート、発表内容、議論における発言の頻度と内容、出席状況等により総合的に評価する。欠席は原則的に認めない。

ゼミ選択上のアドバイス

学生の主体性を尊重し、中国地域研究や日中関係にかかわる幅広い分野にわたる関心に対応する。中国大陸（中国国家図書館、民族文化宮等）、台湾（国立台湾図書館、中央研究院等）、香港（香港中文大学等）での資料収集と現地調査（北京、上海、広州、貴州、雲南、台湾、香港など）の経験を踏まえ、多様なアプローチを紹介しながら卒業論文の指導を行う。また、民族衣装・衣服をはじめとした物質文化や、親子や家族を含む社会関係に関するテーマに対しても指導可能である。

その他

特になし

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール4	臼井 陽一郎			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

ヨーロッパ政治研究

内容

ヨーロッパの政治について勉強する。今年も昨年同様、フランソワ・ミッテランとヴィリー・ブランドの二つの伝記をじっくりと読んでいく。その過程で関連する動画や資料も参照する。

また並行して一人ひとりにヨーロッパに関するパーソナルプロジェクトとブックプロジェクトを立ててもらい、報告を義務づける。

そして一番大切なことだが、今年5回目となる10大学合同ゼミ合宿に参加する（今年は名古屋開催）。その運営に積極的に携わってくれる学生を歓迎する。

※ 合同ゼミ合宿は9月10日11日を予定。参加予定大学は北海道大学・北海学園大学・立教大学・法政大学・聖学院大学・東海大学・愛知県立大学・関西学院大学など。4年生がサポートしながら3年生が運営する。

なお、毎回4時間相当の予習／復習が必要になる。

使用予定テキスト

ショレゲン『ヴィリー・ブランドの生涯』三元社
ヴィノック『ミッテラン：カトリック少年から社会主義者の大統領へ』吉田書店

ゼミの進め方

指定テキストはグループを作って手分けして読みを進めていく。パーソナルプロジェクトは、新潟国際情報大学で一番詳しくなることを目指してテーマを限定して選んでもらう。ブックプロジェクトではページの裏側まで読み尽くすような精読を経験してもらおう。

成績評価基準

指定テキスト課題50％＋個人選択課題50％

ゼミ選択上のアドバイス

飲み会や小旅行、合宿、他大学との合同ゼミなど、授業時間外の活動を大切にしていきたい。

その他

LINEグループで連絡し合うので、スマホでない人はPCで利用してもらうことになる。そのつもりでいてほしい。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール4	矢口 裕子			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
テキスト講読によるジェンダー／文学／文化批評							
内容							
文学研究の世界では、1980年代後半以降、「ジェンダー・階級・民族性」という新たな視点を導入することにより、それまで埋もれていた周縁的位置に追いやられていた作家・作品が発掘され、さらに、すでに正典（キャンオン）として評価が確立しているかに見えた作品を読み直す作業が盛んに行われるようになった。また、そうした新たな批評の道具を映画・音楽等ポピュラーカルチャーの解読に応用する試みも活発である。 このゼミでは、そうした批評的視点から文学、映画、音楽、文化一般や時代を読み解くこと、最終的にはその成果としての卒業論文をまとめることを目標とする。 日本語のテキストと英語のテキストを両方取り上げる予定だが、場合によっては英語のみとする、翻訳のゼミにする等の選択肢もありえる。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
田嶋陽子『ヒロインはなぜ殺されるのか』講談社 舌津智之『どうにも止まらない歌謡曲』晶文社 大和田俊之『アメリカ音楽史』講談社 Harry M. Benshoff and Sean Griffin, Gender and American Film , Eihosha. Anais Nin, Linotte: The Diary of Anais Nin , Harcourt.							
ゼミの進め方							
レポーター制によりテキストの精読を行う。レポーターの仕事は、テキストの内容をまとめ、調べるべきことを（舐めるように）調べ、そのうえで自分の意見・疑問・論点を提示し、ゼミ内の議論を活性化させることである。むろんレポーター以外の学生もテキストを精読し、自分の意見を用意してゼミに臨むことが求められる。							
成績評価基準							
レポーターとしてのゼミへの貢献度、普段の発言等ゼミへ取り組む姿勢、随時課す少レポート、半期ごとに課す期末レポートの成果を総合的に判断する。							
ゼミ選択上のアドバイス							
読むこと、書くこと、考えることが好きな学生、様々な分野にアンテナを張り巡らせた、知的好奇心旺盛な学生を歓迎する。3年ゼミは2年間かけて卒論を完成させる重要なものなので、自分の興味、適性、志向に鑑みて熟慮の上選んでほしい。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール4	越智 敏夫			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
政治思想と現代社会							
あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」							
内容							
卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組めます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということとはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるといったことはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。							
もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。							
ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んでもいきます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーという5人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。							
しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にないので、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。							
こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいられるかもしれませんが。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
たとえば、下記。具体的には学生と相談します。							
ヴェーバー『職業としての学問』 岩波文庫							
ヴェーバー『職業としての政治』 岩波文庫							
ベンヤミン『複製技術時代の芸術』 晶文社							
ベンヤミン『ドイツ悲哀劇の根源』 講談社文芸文庫							
アレント『全体主義の起原』 みすず書房							
アレント『暴力について』 みすず書房							
丸山眞男『現代政治の思想と行動』 未来社							
丸山眞男『日本の思想』 岩波新書							
フーコー『知への意志 性の歴史』 新潮社							
フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』 新潮社							
ゼミの進め方							
テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という3者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。							
成績評価基準							
出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。							
ゼミ選択上のアドバイス							
自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そここのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。							
その他							
合宿は夏期休業中に3・4年合同でおこないます。県内を予定しています。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール4	神長 英輔			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

ゼミテーマ・タイトル

「わたしの世界史」を書く
――東北アジア地域・旧ソ連地域の近現代史とわたし――

内容

東北アジア近現代史・ロシア近現代史と歴史学の方法について学びます。
ここでの東北アジア史とは、日本史、中国史、朝鮮・韓国史、ロシア史、モンゴル史などを含みます。
また、これらの地域の近現代の文化史・文化研究も含みます。
授業では東北アジア史のとくに近現代に関する研究書を精読かつ多読します。
ロシア史を含む東北アジア史に関する体系的な専門知識と知的生産の技術を身につけてください。
また、現代の東北アジア地域に暮らす自分が、上記の地域の歴史とどのように関わっているのかを論理的に語り、体系的に記述できるようにしてください。
また、中級水準のロシア語文章を精読し、ロシア語作文も練習し、ロシア語の高度な運用能力を身につけることをめざします。
人数によってはロシア語での簡単な発表と質疑応答も求めます。
基本的にはロシア語既修者の参加を想定していますが、未習者も歓迎です。未習者が参加する場合は授業内容の一部を変更します。
最終的には、広義の歴史学研究の発展に寄与できる卒業論文を書いてください。
授業ではたくさん読み、書き、話すことを期待しています。
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

3年ゼミではさしあたりの教科書として
・ウォーラーastein『近代世界システム III』『近代世界システム IV』
・アンダーソン『想像の共同体』
・サイード『オリエンタリズム』
を読む予定ですが、参加者の関心に応じて本は変更します。
ロシア語の精読テキストはこちらで用意します。
ロシア語の作文テキストについては参加者と話し合って決めます。

ゼミの進め方

授業の内容は下記の1・2・3・4の通りです。
1. 研究書精読
研究書を読み進めます。
毎週、参加者全員が該当箇所を読み、事前に要旨を提出します。
当日は担当者が事前に指定された内容の報告をおこない、それに対する質疑応答をおこないます。
2. 中級ロシア語精読
外国人のロシア語学習者向けの教科書
『Читаем о России по-русски』
を読みます。
全員の毎回予習が前提です。
(ロシア語履修者の参加を前提としています)
3. 発表
3年ゼミでは卒業論文の研究計画書を定期的に提出し、
4年ゼミでは定期的に卒業論文の原稿を提出してもらいます。
連絡はメールでおこないます。
参加者には交代で毎回の授業内容をゼミ全員あてのメールで報告してもらいます。
なお、参加者の人数等に応じて上記の内容を多少変更することがあります。

成績評価基準

授業の参加度と課題の提出状況をもとに評価します。
欠席の多い方、課題提出を怠った方の単位は認めません。
やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

ゼミ選択上のアドバイス

ロシア語既修者の参加を前提としていますが、
ロシア語未習者の方も歓迎します。
ロシア語未習者の方が参加する場合は、授業内容の一部
(ロシア語に関係する部分)を変更します。
参加者に求めるものは主体性と積極性です。
毎週の課題が多いため、予習と復習にはかなりの時間が必要になります。
本を読むのが嫌いな方、文章を書くのが嫌いな方はおすすめできません。
また、学生としての最低限の約束事(必要な連絡や期限など)を守れない方はご遠慮ください。
旧ソ連地域と東北アジア地域の歴史と文化に関心があり、
情熱を持って学びたい人のための授業です。
学問もスポーツや芸術と同じです。
徹底した基礎訓練の蓄積の上に創造性が開花します。
いっしょに本気で学びましょう。

その他

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール 4	小山田 紀子			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

グローバル化と地域社会—中東・北アフリカ・ヨーロッパ・日本を中心に—

内容

- 教員の研究テーマ：
マグレブ近現代史（マグレブとは、北西アフリカの西方アラブ圏諸国を指すアルジェリア・チュニジア・モロッコ3国）、アルジェリアの植民地史研究、フランス帝国主義研究、マグレブの脱植民地化の過程に関する比較研究、フランスのイスラーム系移民問題、日本における異文化理解（外国人、とくにムスリムとの交流など）
- これまでの卒業研究のテーマ（小山田ゼミで取り上げられたテーマ）
「チュニジア・ジャスミン革命—その歴史的要因と『アラブの春』の行方—」
「カダフィの生涯—リビア革命からアラブの春まで」
「アルジェリア独立戦争—フランス植民地支配の歴史と戦争の記憶—」
「フランスの教育問題—教育優先地域（ZEP）を中心に—」
「フランスの移民政策とムスリム系移民の現状—2005年の郊外暴動を中心に—」
「フランス移民二世代における社会的統合—共生社会に向けて—」
「現代フランスの子育て支援—女性の社会進出と家族政策—」
「パリ・コレクションの歴史—世界ファッションへの影響—」
「フランス凱旋門賞と日本馬の挑戦」
「在日ムスリムの生活と文化—新潟アンヌールモスクの事例を中心に—」
「エジプト革命—ナセルの政治—」
「ドイツにおけるトルコ系移民—国民国家への統合をめぐる—」
「シオニズム運動の思想とその時代背景」
「イスラエル・パレスチナ問題と中東和平の行くえ—イスラエル側からの視点—」
「独立国家アルジェリアにおけるイスラーム復興運動の展開」
「フランスの移民政策とアルジェリア人移民労働者問題」
「ケマル革命—トルコ近代国民国家形成に関する考察—」
「石油開発の歴史と環境問題—中東石油を中心に—」
「クルド人問題—中東の少数民族—」
「日本における無国籍者—日本の国籍法に関する考察—」
- など

- 内容（目的やねらい）
本ゼミでは、2つの地域—ヨーロッパ（特にフランス）と中東（北アフリカを含む）—におけるグローバル化に伴う現代社会の問題を主に取り上げる。ドイツとともに EU の中核を担うフランスは今日、大革命以来の自由・平等・博愛という国民国家の理念を揺るがすような問題を多く抱えている。とくに移民問題は深刻であり、2005 年秋にはパリ郊外から発生した移民の若者の暴動は全国に広がり、戒厳令が発令されるまでに至った。移民の歴史は植民地時代にまでさかのぼる歴史的帰結としての問題である。またフランスの旧植民地であった北アフリカでは、2011 年にチュニジアのジャスミン革命が起こり、これを契機に中東全域に民主化のうねりが拡大し、チュニジア・エジプトでは独裁政権が瓦解した。リビアは内戦に陥り、カダフィ政権は NATO 軍の介入により崩壊し、さらにシリアは今も内戦状況で、多くの難民が周辺諸国に流出している。しかし、独裁政権が倒れた国々でも民主化の新たな道筋はいまだ見えてこない。
- 本ゼミでは、フランスを中心としたヨーロッパの近現代史、とくに帝国主義や植民地問題、あるいは中東から見た近現代史を取り上げ、国家と社会について研究を行う。これらの問題は究極的には、国民国家とは何か、という問題に帰着するであろう。
- 以上のような外国研究は日本との比較の視点からなされるのであり、それは日本社会の在り方、そして日本人の生き方にも敷衍していく問題である。グローバル化にともなう地域社会の変容をテーマとし、日本における異文化接触の問題も取り上げていきたい。例えば、日本のムスリム社会や日系ブラジル人問題、大都市の中で多文化共生を模索するインナーシティの研究など、日本国内でも、グローバル化に伴う異文化研究が可能である。
- 以上のようなテーマの中から、学生各自が関心を持ったテーマを選んで個別研究を進めていく。
- 毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

陳天璽『無国籍』新潮社
桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書
宮島喬『外国人の子どもと日本の教育—不就学問題と多文化共生の課題』東京大学出版会
ロジャー・ブライス著、河野肇訳『フランスの歴史』創土社
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史—国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房
宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006 年
宮島喬『移民の社会的統合と排除—問われるフランス的平等』東京大学出版会
山本三春『フランス ジュネスの反乱』大月書店
立山良司編著『中東』、自由国民社
宮治一雄・宮治美江子編『マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—』大学図書出版
バンジャマン・ストラ著、小山田紀子・渡辺司訳『アルジェリアの歴史』明石書店
新井政美『トルコ近現代史—イスラム国家から国民国家へ—』、岩波書店
水谷周編著『アラブ民衆革命を考える』国書刊行会
酒井 啓子 編著『〈アラブ大変動〉を読む—民衆革命のゆくえ』東京外国語大学出版会
福富満久『中東・北アフリカの体制崩壊と民主化』岩波書店
私市正年・栗田禎子編『イスラーム地域の民衆運動と民主化』、東大出版会
その他、適宜指示する。

ゼミの進め方

3 年次はゼミの構成メンバーの関心にしたがって、上記のテキストを順次選び、全員で輪読する。報告者は担当個所のレジュメを作成してきて報告し、それに対して他のゼミ生と議論を行い、理解を深める。このようにして中東地域研究やフランスという国、日本という国の見方を学び、社会変容の分析視点を獲得する。

成績評価基準

レポート、演習の出席状況・ゼミ活動に取り組む姿勢等により総合的に評価する。欠席は原則として認めない。欠席が続く学生はゼミをやめてもらうこともある。

ゼミ選択上のアドバイス

本ゼミではフランスや中東地域研究を中心に行うが、これに限らず、ヨーロッパや日本における問題を個別研究として取り上げてもよい。ただし担当教員のカバーできる歴史学や国際社会学等の分野のテーマであることが望ましい。ゼミ(演習)は、教員からの一方的な指導によって進めるものではなく、ゼミ学生がその運営に積極的に参加して作り上げていく共同研究グループであるので、みんなと一緒にやっていくのだという気構えを持ってこのゼミに入ってほしい。今年はどのようなメンバーが集まるのか楽しみである。

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール 4	山田 裕史			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
国際協力研究							
内容							
国際協力について学ぶゼミです。貧困と開発（保健医療、教育、インフラ）、紛争と平和構築、人道支援などの分野の国際協力に関する研究を中心にを行います。 履修者は、文献講読やワークショップを通じて、国際協力に関する理論と各種活動に関する専門的知見を習得するとともに、研究テーマの決め方、文献・資料の探し方と整理の仕方、まとめ方、口頭発表や論文の書き方など、次年度の卒業論文執筆に向けて学術的な技法を基礎からじっくり学びます。 また、学内外の国際協力団体やイベントへの参加を通じて、市民・学生という立場で国際協力の実践（フェアトレードやテーブル・フォー・ツー等）に取り組むほか、希望者がいれば、カンボジアまたはベトナムをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。 例年、夏休みと春休みにゼミ合宿をしています。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
以下の3冊の講読を予定していますが、履修者と相談のうえ、履修者の研究分野と関心にもとづきテキストを選定します。また、各自のリサーチ課題に応じたテキストを紹介します。 高柳彰夫・大橋正明編『SDGsを学ぶ』法律文化社、2018年 デイビッド・ヒューム『貧しい人を助ける理由』日本評論社、2017年 西あい・湯本浩之編著『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店、2017年 また、以下のテキストを用いて、卒業論文執筆に必要な学術的な技法を学びます。 川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010年							
ゼミの進め方							
履修者の研究分野や関心にもとづきテキストを選定し、(1)テキストの講読、報告と討論、(2)各自の研究テーマ設定に関する報告と討論、を組み合わせて行います。							
成績評価基準							
(1)出席、(2)テキストおよび各自の研究テーマ設定に関する報告と討論の内容、をもとに総合的に評価します。 報告内容に関するコメントやレジュメの添削などによるフィードバックを行います。							
ゼミ選択上のアドバイス							
国際協力に関する専門的なテキストも講読するため、3年次までに後期開講科目の「国際協力論」の単位を取得済みであるか取得見込みであることが望ましい。 学びと活動の双方を重視する積極的な学生、「学術論文の書き方もしっかり身に付けたい」という学生の履修を歓迎します。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール4	佐々木 寛			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
平和のための地球政治学——新しい＜文明＞を求めて							
内容							
当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかりと知的につかまなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおののが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み＝専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまな展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策、新しい生き方や＜文明＞のあり方をともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やN G Oで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でN G Oを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。 最終的に各自ゼミ論文（3年次）、および卒業論文（4年次）の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆくだけでなく、さらに必要に応じて調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、海外に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争/平和記念館（ドイツでは「アウシュヴィッツ」、韓国では「ナヌムの家」）などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。 当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
◎H. アレント『人間の条件』 筑摩書房 ◎A. ギデンズ『近代とはいかなる時代か？』 而立書房 ◎U. ベック『危険社会』 法政大学出版局 ◎A. メルッチ『現代に生きる遊牧民』 岩波書店 ◎E. サイド『知識人とはなにか』 平凡社 ◎P. ブルデュー『メディア批判』 藤原書店 ◎日本平和学会編『「3・11」後の平和学』早稲田大学出版部 など。 ―一他に必要なに応じて英語文献も読みます。							
ゼミの進め方							
ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。							
成績評価基準							
ゼミへの参加態度や貢献度 ＋ レポートの出来。							
ゼミ選択上のアドバイス							
能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていかうとする気概をもった学生、また、大学生生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール4	澤口 晋一			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
自分の脚を使って、観て、考えるゼミ。							
内容							
以下の分野からテーマを決め、関連文献をできるだけ多く読むことで、自己の課題を決定し、調査地（あるいは調査項目）選定まで行う。							
・地理学分野							
自然地理学：地形学（高山・山岳、段丘、変動（活断層）地形、沖積平野等）							
第四紀学（古環境変動）							
気候学（小気候・微気候、気候景観、ヒートアイランド等）							
地生態学・景観生態学（植生、自然景観保全、ビオトープ）							
人文地理学：土地利用（景観変遷）、食糧問題、地域研究、観光地理学、地誌学							
・地球環境問題分野：地球温暖化問題、酸性雨、砂漠化、生物多様性 等							
・地域環境問題分野：地域環境保全、ゴミ問題、森林保全 等							
・資源・エネルギー分野：資源枯渇、自然エネルギー、原子力発電に関する問題（と核問題）等							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
なし							
ゼミの進め方							
前期は個々のテーマに関係する論文（専門誌掲載論文）を5本以上読む。							
夏休みは卒論の調査を行う。							
成績評価基準							
ゼミへの取り組み姿勢							
ゼミ選択上のアドバイス							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール4	小林 伊織			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
Peter Seminars on World Englishes for juniors/seniors (In preparation for writing an undergraduate thesis on World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF), and sociolinguistics)							
内容							
There are more non-native speakers of English in the world today than there are native speakers. Asia is the region with the largest number of English speakers in the world. This means that the learner in Japan is more likely to use English with other non-native speakers, particularly those from Asia, than with native speakers. There is no single standard variety of English in the world. The spread of English around the world meant that many different varieties of English developed in various locations. It did not mean that British English or American English was transplanted in different locations in its original form. English is an Asian language. Japan is a part of Asia; English is also a Japanese language. When a Chinese, a Japanese, a Korean and a Russian talk to each other in English, each one speaks his/her own variety of English. Here, what is considered to be “correct” or “incorrect” in American English is irrelevant as long as they can communicate successfully. The learner from Niigata should be able to use English as his/her own tool to express the cultures and thoughts of Niigata to people in Asia and all over the world. In the Peter Seminar, we first look at the frameworks and key concepts of World Englishes. Then we explore selected varieties of world Englishes, including Philippine English, Singapore English, Indian English and West African English. Finally, we consider the implications of the emergence of new Englishes for English language teaching and learning. The seminar requires 4 hours of self-study per session. This time should be spent doing pre-seminar reading as well as presentation and essay preparations.							
使用予定テキスト							
Honna, N., Takeshita Y. & D’ Angelo, J. (2012). Understanding English across Cultures. Tokyo: Kinseido. Honna, N. & Takeshita, Y. (2009). Understanding Asia. Tokyo: Cengage. 本名信行 (2006) 英語はアジアを結ぶ 玉川大学出版部 Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students. Oxon: Routledge. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge: Cambridge University Press.							
ゼミの進め方							
1. Pre-class reading 2. Short introductory lecture 3. Small group discussion 4. Student presentation							
成績評価基準							
20% Attendance 20% Participation 20% Presentation 40% Essay Before, during and after the semester, you will receive feedback about your performance in the seminar through oral and written methods.							
ゼミ選択上のアドバイス							
You should join the Peter Seminars if you plan to write an undergraduate thesis in English about topics related to World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF) and sociolinguistics.							
その他							
Other details of the seminars will be announced in the first meeting.							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール4	アレクサンドル プラ ーソル			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
ロシア社会と文化、日露文化比較研究							
内容							
このゼミはロシア文化の知識を深めることを目的とする。ゼミ学生の発言力がつくように授業中の論争をあくまでも励ましたいと思う。そのために全員は毎回資料の読んだ部分をプリントにまとめてみんなに配付しなければならない。よくわからなかったまたは疑問に思ったところについては、ゼミの相手に答えてもらうことと他人の疑問に答えるのは義務づけられている。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
下斗米 伸夫、 島田 博 現代ロシアを知るための60章 明石書店 2016 原 卓也 読んで旅する世界の文化 ロシア 新潮社 1997							
ゼミの進め方							
ゼミ生に発表してもらって、それぞれの発表を巡って意見交換やディスカッションを計らう。ゼミ生の人数によって、発表は毎回が一週おきに行われる。							
成績評価基準							
出席率、授業の参加、レポート提出によって成績を評価する。レポートや発表のフィードバックとして特に優秀な答案を公表し、全般的な講評を行う。							
ゼミ選択上のアドバイス							
発表準備の際、参考文献に不明な点があれば、追加参考書を利用して明確にすること。発表準備の際、不明な点について質問などを用意して授業中に担当教員に説明してもらうようにしよう。							
その他							
ゼミ研究の目標は次の通りである。 グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な目差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体の問題への認識を深める国際教養及び研究手法を体得していること。 異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること。 日本社会にあって上記学術的素養を日々の生活に生かす方途をたえず模索するつよい意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール4	藤本 直生			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
英語による社会言語学 Sociolinguistics in English							
内容							
「ことばを話す」ことは、私たちが生活する上でとても大切な能力です。私たちは母語である日本語を無意識に話しているように思いますが、場所や状況に合わせて適切に使っています。また、ことばは生きていて、絶えず変化しています。社会言語学とは、このようなことばの変化に焦点を当てた学問です。本ゼミでは、次の10の観点から社会言語学の基礎を学びます。また、ハンドアウトは英語で書かれたものを使って、英語で授業を進める予定ですが、場合によっては英語と日本語のバイリンガルで行うこともあります。 - Gender 男女によることばの差 - Age 年齢差によることばの違い - Ethnicity 人種・民族による言語差 - Social class and regional differences 社会階級と地域による言語の違い - Language and culture 言語と文化 - Forms of address 呼びかけ表現 - Politeness ことばによる丁寧表現 - Image and association イメージと連想 - Speech acts and discourse スピーチアクトとディスコース - Nonverbal language 非言語伝達 なお、英文エッセイを書くための基礎を養うために、Extensive Reading (略して ER、多読) も並行して行います。ER では図書館にある Graded Readers の中から自分の興味ある内容の本を選んで、昼休みや放課後等の時間を使って各自のペースで読み進めます。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
プリント教材を使用するため、それを綴じるためのファイルを各自で購入すること 『An Invitation to Sociolinguistics 社会言語学への招待ー社会・文化・コミュニケーション』 ミネルヴァ書房 (2,500円＋税) 『めざせ！100万語 読書記録手帳』SSS 英語学習法研究会著、コスモピア株式会社 (600円＋税)							
ゼミの進め方							
英語で書かれたハンドアウトをもとに、ペアやグループでディスカッションしながら進めます。							
成績評価基準							
授業態度・授業への参加 30%、ER 20%、英文エッセイ 40%、ファイルマネージメント 10%							
ゼミ選択上のアドバイス							
ことばやさまざまな言語に関心があり、4年生になった時に英語で社会言語学および談話分析に関する卒業論文を書き上げたいと考えている学生の皆さんは、ぜひ藤本ゼミへ。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール4	區 建英			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

現地視点を導入する中国と日本研究

内容

このゼミは次の特徴があります。第一は外国を研究する時、現地の視点を導入する方法を実践します。外国研究において、「他者を他者の内側から理解する」ことの重要性から、対象国の言葉で理解することを重視します。したがって、中国研究においては、日本語文献のみに頼るばかりではなく、できるだけ直接中国語文献を読むよう勧めます。ゼミでは、中国語の文献や映像も導入します。ただし、語学の授業ではなく、研究の中で中国語を用い、よって中国語の使用能力を高めるのです。もちろん、日本語による中国研究の文献も重視します。要するに、多様かつ国際的な視点を通して、学生自身の見解を立ててもらいたいです。

第二は、知性と学術的素養の形成を目指します。卒論テーマは学生それぞれの関心に基づいて決めますが、ゼミの内容は主に学生の知的思考、学術的思考、論理性および中国語能力を高めるために組みます。具体的には、中国語または日本語の文献や作品（映画も含めて）に描かれた社会事象を取り上げ、学術的概念を手がかりとして分析してみます。例えば、愛とは何か、肉親や友人関係を超えた赤の他人への愛はどこまでできるのか、仁という概念を活用して考えます。また、利益を求める場合は徳義を無視すると、どこまで害が発生するのか、競争において徳義があるのとならないのか、義と利という対概念を活用して考えます。あるいは「中国人の日本観」「日本人の中国観」についての文献を読み、相互の認識を通じて日中関係を考えます。あるいは、国際交流や異文化理解の関心から、日中文化の比較研究を行います。

第三は、学生諸君の個性を生かしてそれぞれの関心を卒論テーマに組み込みます。分野としては、政治、経済、文化、習俗、国際関係にわたっても、日本と中国の比較研究も可能です。方法としては、中国に内在した研究、日本に内在した研究を試み、あるいは中国を通じて日本を見、日本を通じて中国を見、日中を通じてアジアを見、世界的な問題への理解を目指し、あるいは身近な新潟の実践的課題を考えることも可能です。要するに、学生がそれぞれ自分の関心から研究テーマを選び、それに応じて、私は学術研究の方法を具体的に指導します。

参考として、これまでの卒論テーマ（例）

- 1、戦後の日中民間交流
- 2、日中友好協力と新潟県人の活躍
- 3、中国における日本の漫画とアニメ
- 4、中国の民族文化と生活習俗
- 5、中国大学生の就職問題
- 6、中国の環境問題とNGO活動
- 7、中国の経済格差の問題
- 8、中国大陸と台湾の関係

使用予定テキスト

中国語の映像、中国人あるいは他国の人に書かれた中国語文献、それに対応する日本語文献。
具体的なものは授業時に指定。

ゼミの進め方

一方では、中国語の文献や映像を学びます。例えば、中国人に書かれた中国語文献や他国の人に書かれた中国語文献を輪読・輪読し、あるいは、中国の映画や映像資料を見て理解・討論し、中国語による研究能力も次第に身に付けます。他方では、日本人の手による優れた研究文献を輪読し、日中双方の視点から内在的理解の思考様式を育てます。そうしているうちに、学生自分の真の関心を見つけ、卒業研究へと発展します。3年次は主として知的思考と中国語能力を高め、自分の関心がもてる課題を見つけ、学術研究の基本的方法を学び、卒業研究の基礎をととのえていきます。4年次は卒論を中心として進め、学術論文のルールやプレゼンの方法を教え、皆が自分の研究成果を完成するよう指導します。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

成績評価基準

ゼミの出席と輪読や討論の状況に基づきます。

ゼミ選択上のアドバイス

このゼミは語学の授業ではありませんが、一定程度の中国語の修得を前提にして、中国語を研究に使いますので、中国語履修者が望ましいです。

その他

私の専門分野は思想史です。思想史は堅苦しいと思われがちですが、社会を良くするために考え、思索した人々の感動的な物語であり、意外と普通の人々の日常生活や感覚につながっています。私は思想の角度から、日本と中国の近代化における諸問題を研究しています。日本の優れた政治学者・丸山真男先生から指導を受け、「他者を他者の内側から理解する」という教示に、他者感覚の重要さを深く感じました。

私の一貫した関心は、中国の近代化における思想文化の変遷です。現代については、グローバル化における中国経済、民主化、外交関係とくに日中関係の諸問題にも注目しています。ただし、ゼミの研究テーマは、私の関心と研究分野に縛られず、主に学生の関心に基づきます。また、中国で生まれ育った私は、30年以上日本に生活しており、この経験の中で、双方の視線から、相手国に内在した理解を次第に身に付けています。ぜひ双方からの国際理解を、学生と一緒に試みたいのです。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール4	申 銀珠			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
文学・映画で学ぶ韓国・朝鮮と日本							
内容							
「国際研究ゼミナール3」の学習内容と連動しながらテーマを拡大・深化していきたい。 韓国・朝鮮と日本、またはアジアを見つめなおし、「今」と「これから」の様々な問題や課題に向けて理解を深めていきたい。4年の卒論作成のためにも、常に自分の研究テーマを探りながら、ついてきてほしい。 ゼミの後半では、4年の卒論テーマに関連する発表を各自2回以上行う。議論を深め、具体的な研究テーマを絞っていけるように指導したい。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
・映画『族譜』 ・映像「詩人尹東柱」 ・ドラマ『土地』 ・中野重治関連論文等							
ゼミの進め方							
ゼミ生全員が事前にテキストを読みまたは映像を観て、ゼミでは二人ずつ内容をまとめ発表してもらったあと、皆で討論を行う。毎回発表者とコメントーターと司会を決め、ゼミの内容、進行等を学生が自主的に行うようにしたい。							
成績評価基準							
主に学期末のレポートで評価する。出席率、普段の授業態度、発表の内容、発言などを評価に加える							
ゼミ選択上のアドバイス							
3年のゼミは4年の卒論につながるものだから、自分の興味・関心のある分野を積極的に選んでほしい							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール 4	瀬戸 裕之			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

東南アジアの国際関係と地域変容

内容

1. ゼミの内容

本ゼミでは、東南アジアの国際関係と地域変容について勉強することを主な目的としています。

東南アジアは、かつて欧米諸国の植民地支配を経験し、第二次世界大戦終結後の冷戦期には、インドシナ戦争、ベトナム戦争、カンボジア紛争など激しい戦争が行われ、多くの犠牲者が出た地域です。1960年代から地域統合の動きがはじまり、1980年代末の冷戦終結後にメンバーが拡大するなど、現在、アジア地域で唯一、地域統合が進みつつある地域です。その一方で、現在の東南アジアでは、ASEAN 諸国の中で経済発展に大きな格差があり、民主化や人権保障の面でも、多くの国が課題を抱えています。

東南アジアは、日本との関りも長く、現在も日本企業が多く進出しています。しかし、第二次世界大戦期には、東南アジアに対して戦争被害を与えた歴史があります。日本がこの地域とどのようにかかわっていくべきかを考えるためには、現代の東南アジアが経験した戦争や地域統合の動きを学び、日本と東南アジアの関係について、お互いに対等な立場で考えることが重要だと考えています。

東南アジアの国際関係と地域変容について、より広い国際情勢の変化と日本との関係の視点から学びたいと思います。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

2. 教員の現在の関心

冷戦期における東南アジアの戦争が現在の地域変容にどのような影響を与えているのかに関心を持ち、研究を行っています。

3. 過去のゼミ生の卒業論文タイトル（一部のみ）

（東南アジアに関するもの）

「ベトナム戦争における民間人の虐殺についてーソンミ虐殺を中心にー」

「戦争が引き起こした環境問題」

「虐殺事件は裁けるのかーカンボジア特別法廷を事例にー」

「東南アジアへの日本企業の進出ーベトナムを中心にー」

「東南アジアにおけるイスラーム紛争」

（南北問題に関するもの）

「2000年以降におけるラテンアメリカの左派政権ームヒカ元大統領を生んだ経済的・政治的背景ー」

「鉱物資源が紛争にどう関わっているかーコンゴの紛争を中心にー」

「SDGs達成に向けた循環経済構築の可能性ードイツの取り組みを中心にー」

使用予定テキスト

ゼミで使用するテキストは、次の通りです。（受講者に購入してもらいます。）

白石隆. 2016. 『海洋アジア VS. 大陸アジアー日本の国家戦略を考える.』ミネルヴァ書房.

ゼミの進め方

前半は、ゼミで指定したテキストを輪読しながらゼミを進めます。具体的には、学生が本の担当した部分をまとめ、関連情報を調べてゼミ内で発表し、それに基づいて学生の間で質疑応答を行います。必要に応じて、教員が情報を補足します。この作業によって、東南アジアの国際関係と地域変容に関する基礎知識を身につけます。

後半は、東南アジアの国際関係と地域変容について、学生が関心を持ったテーマについて報告し、それに基づいて議論をします。

成績評価基準

ゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1) ゼミへの出席と授業態度 (25%)、(2) 担当した発表内容と取り組みへの姿勢 (50%)、(3) ゼミでのディスカッションへの参加 (25%)、に基づいて、成績を出します。

ゼミ選択上のアドバイス

東南アジアの国際関係や地域変容に関する内容で、東南アジアの歴史、政治、経済、社会変容が主な内容になります。少し難しい内容になるかもしれませんが、慎重に選択してください。

東南アジアの近現代史、現代社会の国際関係に関する基礎知識が必要になります。ゼミに入る前に、「現代東南アジア論」の授業を履修していることをお勧めします。受講していない場合も、3年次前期に履修してください。

その他

学生の皆さんと一緒に勉強できる機会を楽しみにしています。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310006	X-21-B-3-310006	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール 4	吉澤 文寿			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
卒業研究（1）―先行研究を整理し、課題を明確にする。							
内容							
私の専門は朝鮮現代史、日朝関係史である。社会学ではなく、歴史学を専門としている。植民地支配をめぐる日本と朝鮮（この場合の朝鮮とは、現在の大韓民国および朝鮮民主主義人民共和国に由来する民族などの総称である）について研究してきた。また、米国での在外研究を通して、米国を視野に入れた比較研究などにも関心がある。個人研究は各人の関心をもとにして設定してもよいが、上記のことを一応留意してほしい。							

このゼミでは以下の通りの計画で進める。							
3年次前期：テキスト学習…近年発表された書籍または論文を輪読したり、それをもとに討論したりする。							
詳細は国際研究ゼミナール3の「使用予定テキスト」を参照されたい。							
3年次後期：個人研究（1）―先行研究の整理…学生それぞれが選んだテーマに即した文献等を収集し、その研究状況を整理する。							
4年次前期：個人研究（2）―調査の実施及びその結果の整理…自分で集めた一次資料やアンケートなどで収集した情報を整理する。							
4年次後期：個人研究（3）―卒業論文の執筆…文献や資料などを補完しつつ、論文を執筆し、完成させる。							
使用予定テキスト							
3年次後期のゼミでは、特定のテキストはないが、以下の文献を貸与する。							
小原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社、2009年							
ゼミの進め方							
学生各人が選択したテーマに関する先行研究を整理し、課題を明確にすることを目指す。私からも参考になる資料や文献を配布するなど、理解を助ける補助は行うつもりである。							
また、長期休暇中に、他大学のゼミやワークショップなどで外部の学生と交流したり、フィールドワークを行う機会を持ちたい。							
成績評価基準							
出席とレポートで評価する。							
欠席をしないこと。とくに無断欠席は厳禁である。							
レポートは2000字程度で、3年次後期に各自が設定したテーマに関する先行研究を整理し、明らかにすべき課題を示すこと。							
ゼミ選択上のアドバイス							
もし、このゼミから初めて参加する者は、事前に卒業研究のテーマを設定しておくこと。							
その他							
予習復習に4時間。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習